

この本では、「地域」と「都市」をみなさんの感覚であらためて捉えなおし、そこから見えたものを書き起こす一步を踏み出す後押しをしたい。

「地域」も「都市」も、あらためて捉えなおさなくても、もうすでにそこにあるのでは？ と思う人もいるかもしれない。たしかに、地域活性化や都市再開発が語られるように、地域はなにか問題があるものとして、みなさんもすぐイメージできるかもしれない。あるいは地域も都市も、東京やアジアのように、ある地理的な範囲として横たわっているとされるかもしれない。

だが、いったん国や地方の行政単位を外して考えてみよう。すると、どこからどこまでが東京なのか、アジアなのか、意外と見定めにくい——東京周辺に暮らしたことがある、ロシアや中東などを旅したことがある人なら、実感できるだろう。そう、そうしたみなさんの実感から、あらためて「地域」や「都市」を捉え返してほしいのだ。

その手がかりとして、この本でまず紹介するのが、2つの「距離」という考え方だ。「遠くて近い関係」という言葉を聞いたことがある人もいるだろう。物理的な距離は遠く離れていても、心が通いあっていたり、さまざまに支えあったりする間柄。離れて暮らす家族であったり、久しぶりに出逢って意気投合する知り合いであったり。そんなふうには、目に見える空間だけ見ていると捉えられない関係が、私たちにとって、かけがえのないものであることも少なくない。ここでいう「関係」は人間どうしのもものだけではない。遠く離れた場所で決まった法律や規範が、私たちをぐっと捕まえ、都市のあり方を変えてしまうこともある。行ったことも聞いたこともない場所で起きた環境破壊が原因で、私たちの身の回りやさまざまな地域に自然災害が起きることもある。そうした制度や環境との「関係」も、思いのほか重要になってくる。

そんなふうには「地域」や「都市」を捉え返して何になるのだろうか。そんな当然の疑問に対して、この本で伝えたいのが「空間的共存」という、もう1つのキーワードだ。私たちはふだん道を通り過ぎたりショッピングモールに出かけたりして、それなりの人と出逢うだろう。だが、その人たちと「共存」していると言えるだろうか。あらためて考えてみてほしい。歩くたびにぶつかりも

せず、それなりに居心地よくしているのは、本当に当たり前のことなんだろうか。私たちはどうやって、すぐ脇を行き交う人たちと「近くて遠い関係」をつくりだしているのだろうか。逆に、先ほどの「遠くて近い関係」が築かれているのだろうか。こうした問いを解く鍵が「空間的共存」という考え方だ。

そんなわけで、この本はまず第**1**部「地域を実感する」で、「距離」や「空間的共存」といったキーワードから、どう感覚を研ぎ澄まし、その結果を書き起こすのかの手がかりを示したい。そのうえで、第**2**部「地域に集まる力／世界に広がる力」で、たとえば「距離」や「共存」をつくりだす「引力と斥力」の具体的な姿をみなさんとたどってみたい。次いで第**3**部「地域・都市で生まれる社会」では、先ほどの「関係」の東としての「社会」のあり方を、そして最後の第**4**部「地域・都市のこれから」では、そうした「社会」の未来を、みなさんとともに追ってみたい。

最後に、あらためてみなさんを誘いたいのが、こうして「たどり、追った」先に、自身の捉え返しを書き起こすことだ。各章末には **WORK** として、30分、90分、もっと時間をかけてチャレンジするプログラムを示してみた。第**1**部の終わりの **Toolkit** も含め、それぞれの章でも、たんにこういう考え方があったという結論だけでなく、どうやってそうした考え方にたどりつくのかという道筋を含めて紹介している。「書き起こす」といっても文字だけが能ではない。地図をはじめ図も大切な手段だし、イラストや写真もうまく活用したい。そして、何か書き起こしたら、ぜひ周囲と、またこの本の著者たちとも分かち合ってほしい。そうやって地域・都市の社会学は1つひとつ充実してきたし、これからもそうあってほしいのだ。

平井 太郎 (ひらい たらう)

[担当：第1・6・9・10章]

弘前大学大学院地域社会研究科教授，博士（学術）

東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学

専門は，地域社会学，合意形成論

主要著作 『地域でアクションリサーチ』 農山漁村文化協会，2022年，『SDGsを足許から考えカタチにする』 弘前大学出版会，2022年（編著），『新しい地域をつくる——持続的農村発展論』 岩波書店，2022年（分担執筆）

松尾浩一郎 (まつお こういちろう)

[担当：第2・5・7・12章]

帝京大学経済学部教授，博士（社会学）

慶應義塾大学大学院社会学研究科後期博士課程単位取得退学

専門は，都市社会学，社会調査史

主要著作 『日本において都市社会学はどう形成されてきたか——社会調査史で読み解く学問の誕生』 ミネルヴァ書房，2015年，『原爆をまなごす人びと——広島平和記念公園八月六日のビジュアル・エスノグラフィ』 新曜社，2018年（共編），「社会調査データとしての映像」『三田社会学』第26号，2021年

山口 恵子 (やまぐち けいこ)

[担当：第3・4・8・11章]

東京学芸大学教育学部教授，博士（社会学）

東京都立大学大学院社会科学研究科社会学専攻単位取得退学

専門は，都市社会学

主要著作 『グローバル化のなかの都市貧困——大都市におけるホームレスの国際比較』 ミネルヴァ書房，2020年（共編），『社会調査の基礎』 放送大学振興会，2019年（共著），『コミュニティ・ユニオン——社会をつくる労働運動』 松籟社，2019年（分担執筆）

コラム執筆者は末尾にイニシャルで表記。

第 部 地域を実感する

CHAPTER 1

地域・都市はどう実感されるか 2

「距離」への敏感さ

- 1 シベリア鉄道から地域と都市を実感する 3
「距離」への敏感さ (3) 鉄道に乗る経験の捉え返し (4)
- 2 地域と都市の実感を「書く」 7
耳を傾けること (7) 世界都市ロンドンと「移民」: 象徴としての
クロイドン (7) 入国者をめぐり誰に耳を傾け、どう書くか (8)
写真、録音: 人びとの方法論 (10) 近さと遠さの往復運動 (11)
- 3 学生とともに「理論」を生かす 12
100名を超える学生によるプロジェクト (12) ゴミ出しの観察
(12) 都市のトポロジー (13) ゴミ出しをめぐるカタストロフィ
(15) クロイドン再訪 (16)

CHAPTER 2

地域・都市はどのように形づくられたか 19

人びとの空間的共存を捉える視点

- 1 1冊の町内会名簿から 20
過去の東京へ (20) 戦争の影響 (21) 都市のなかの地域住民組
織 (22) 地域住民組織の存続 (24)
- 2 町内会は地域か? 25
なぜ、町内会に注目するのか (25) 地域社会での町内会の意義
(25) 地域・都市について問うこと (26)
- 3 人びとの空間的共存 27
社会学的アプローチの意義 (27) 村とはどのようなものか (28)
人びとと空間の関係性 (30)
- 4 地域と都市を捉える社会学的視角 31

- 1 「鳥の目」から——都市空間を可視化する …………… 35
社会地図から考える (35) 東京圏の空間的な特徴 (37)
- 2 「虫の目」から——生きられた空間 …………… 40
スケートボーダーたちの実践 (40) 頭の中の地図 (42) 空間と場所へのアプローチ (42)
- 3 温泉場を生きる——出稼ぎ労働者の日常実践 …………… 44
湯けむりの向こう側へ (44) 温泉場の生きられ方 (45) 同郷者とともにあることの意味 (46)
- 4 再度、都市に束の間に現れる場所へ …………… 47
代々木公園の「たまり場」から (47) 都市のコンタクト・ゾーン (48)

- 1 グローバル化し、そしてローカル化する疫病 …………… 59
- 2 グローバル化のなかの世界都市 …………… 60
そもそもグローバル化とは? (60) 世界都市の勃興 (61)
- 3 都市移住とジェンダー不平等 …………… 63
ハイジはなぜフランクフルトへ行ったのか? (63) グローバリゼーションの使用人 (65)
- 4 介護労働で働く …………… 66
日本の再生産領域で働く移民 (66) フィリピンにルーツを持つ移民と介護労働 (67)
- 5 ある日、届いた手紙から …………… 69
T さんとの出会い (69) 選ばれる日本であるために (71)

〈中心〉と〈周辺〉、そしてその先にあるもの

- 1 彼／彼女の選択は誰のものか？ …………… 75
大学生の進路 (75) 個人に選択をさせるもの (75)
- 2 地域・都市のシステムと首都 …………… 76
都市の持つ力を理解する3つのアイデア (76) ナショナルなレベルの力 (77)
- 3 空間的共存のスケール …………… 79
都市の構造を理解するモデル (79) スケールからわかる共存や格差の意味 (81)
- 4 国家と地方都市 …………… 82
「地方」の意味 (82) 「中央」の根深さ (84)
- 5 都市が国家を超えるとき——広島とヒロシマ …………… 84
広島と震災復興 (85) 復興事業の主体 (85) スケールを超える都市 (86)

進学・就職をめぐる理想と現実

- 1 進学・就職で実感する「地域」と「都市」 …………… 91
どこで何をするか自体の決まり方 (91) 学歴社会のローカル・トラック (91) ローカル・トラックとは何か (92) トラックとローカルなもの (94)
- 2 ローカル・トラックにどうアプローチするか …………… 95
パネル調査と回顧調査 (95) 耳を傾けることから見えてくるもの (96) 想定と現実のズレ (98)
- 3 フィールドに通い続けて見えてくるもの …………… 100
質的な縦断調査と「ローカル・ネットワーク」(100) 学生たちが見出した「ローカル・ネットワーク」(102) あなたも含み込んだ新たなローカル・ネットワーク／トラックへ (105)

都市の公共空間

108

人の集まる場所のしくみ

- 1 街へ出ること、出ないこと 109
- 2 公共空間とは何か 110
空間を分け合うこと (110) 公共空間の分け合い方 (111)
- 3 街の公共空間を観察する 113
道とはどのようなものか (113) ストリート・ライフのゆたかさ (114) 都市の公共空間での関係性 (116)
- 4 公共空間のプライバタイゼーション 118
プライバタイゼーション (118) 公開空地 (121)
- 5 公共空間の公共性 122
公共の私化 (122) 居場所としての公共空間 (124)

都市の不平等はどのように進行しているのか

126

異質性と排除が結びつくとき

- 1 子犬と排除アート 127
- 2 都市の異質性が不平等と結びつくとき 127
都市とソーシャル・ディスタンス (127) 都市の異質性へのまなざし (128)
- 3 都市の分極化の進行 129
シカゴとパリのセグリゲーション (129) 日本の大都市における分極化の検証 (131)
- 4 カプチーノ文化とジェントリフィケーション 131
都市再生? (131) ジェントリフィケーションと報復主義 (132) セキュリティの上昇 (133)
- 5 監獄都市から——マイアミの事例より 134
新興のグローバル・シティ、マイアミ (134) マイアミの分極化の進行 (136) 支援なのか、排除なのか? (137)
- 6 カフェ・パッハは見た——東京・山谷から 138

「日雇いのおじさんたちに日本一のコーヒーを飲ませたい」(138)
変わりゆく山谷(139) 立ち退きをめぐる複数性(141)

7 都市の自由とセキュリティ? 142

CHAPTER 9

コミュニティはどこから来てどこへ行くのか 145

語りのダイナミズム

- 1 コミュニティ・インフレーション 146
「コミュニティ」の捉えにくさ(146) 21世紀から爆発的に使われるようになった「コミュニティ」(146) 「コミュニティ」をめぐる政策の効果(148)
- 2 「コミュニティ」の背後にあるもの 149
人びとが「コミュニティ」を語りだす驚き(149) 資源管理のしくみとしての「コモンズ」(150) 「コモンズ」から「コミュニティ」へ(152)
- 3 「コミュニティ」と名指すことの可能性と限界 155
マンション/団地のコミュニティ(155) 時間軸を長くもつ(158) 人びとが「コミュニティ」のモデルをもつ意味(160)

第4部

地域・都市のこれから

CHAPTER 10

「限界集落」の「限界」はどう乗り越えられるか 166

ここに生きる意味の承認

- 1 人口減少に対する社会学のアプローチ 167
人口減少という私たちの未来(167) 世代間の住み分けという発想(168) 修正拡大集落へのフレームのアップデート(170)
- 2 見失われがちな誇りの空洞化 172
あらためて「地域」の意味を考える(172) 誇り、意味、アイデンティティ(176)
- 3 「承認」とその先の未来 178
心理学化する社会にふたたび目を向ける(178) ジェンダーとバックラッシュ(179) 承認の連鎖反応(180)

地域・都市はどこへ行くべきか

185

地域への問いと社会学的想像力

- 1 450円から広がる世界 186
- 2 個人化・分断化する社会のなかで 187
「ひとり空間」を楽しむ (187) 社会の個人化とリスク (188)
- 3 地域でともに生きるということ 190
共同性とは何か (190) 集合的創造性 (190) 現代の都市・地域
社会における共同性のありか (191)
- 4 寛容性と制度的保障 193
「知る」こと (193) 問題意識と社会学的想像力 (194) 現代的な
地域コミュニティのあり方 (196) シチズンシップの保障とそれ
を認め、希求すること (197)
- 5 民間セクターの役割 198
路上で出会う (198) 地域に散らばる小さな居場所 (199) 広く
地域社会を支えること (200)
- 6 地域・都市のなかへ 201

創造と継承

203

都市の未来、都市の歴史

- 1 都市に未来はあるか 204
未来の風景 (204) 未来の社会的基礎 (206)
- 2 文化の創造 208
都市と下位文化 (サブカルチャー) (208) 創造都市 (209) 歴史
の使われ方 (211)
- 3 都市を受け継ぐ 215
都市と過去／未来 (215) 公共財としての過去 (216) 都市を継
承することの意味 (217)

リーディング・ガイド	221
参考文献	233
おわりに	247
事項索引	249
人名索引	255

Toolkit ● ツールキット一覧

① 自然村（鈴木榮太郎）	51
② 家連合（有賀喜左衛門）	52
③ 人間生態学（パーク）	53
④ 都市的生活様式（倉沢進）	54
⑤ 参与観察・参加型アクションリサーチ（ホワイト）	55

Column ● コラム一覧

① 人びとの暮らしと暗黙知	9
② 東京の社会地図プロジェクトに参加して	38
③ エスニック・コミュニティの厚み	73
④ 言語と国家	78
⑤ ローカルを創造する国家	82
⑥ 他者と自然との交歓という単純な至福をたどる	89
⑦ 人生から「距離」を感じる：ライフ・ヒストリーとライフコース	101
⑧ ビジュアル調査：都市空間の調査法	117
⑨ ホワイトのストリート・ライフ研究	119
⑩ 2つのディスタンス、2つのソーシャル	140
⑪ 「コミュニティ」という言葉で何を語るのか？	154
⑫ 関わるということ	174
⑬ ダイバーシティをめぐる	188
⑭ 文化の中央集権	210
⑮ 歴史と記憶を継承する空間	214

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用でも著作権法違反です。

第1部

地域を実感する

PART



- CHAPTER**
- 1** 地域・都市はどう実感されるか
 - 2** 地域・都市はどのように形づくられたか
 - 3** 空間と場所の問い方
 - 4**
 - 5**
 - 6**
 - 7**
 - 8**
 - 9**
 - 10**
 - 11**
 - 12**

地域・都市はどう実感されるか

「距離」への敏感さ

INTRODUCTION

2018年の新年。私はシベリア鉄道ニジニウジンスク駅にいた。マイナス20度。火花が打ちあがるなか、100人を超える乗客がホームに降り立ち歓声を上げていた。ロシア語ばかりでない。ドイツ語やイタリア語、中国語、耳なじみのない言葉、そして英語。さまざまな言葉が新年を祝っていた。

シベリア鉄道は、ロシアの東方の玄関口にあたるウラジオストクから、シベリアの大地をひた走り、首都モスクワまでおよそ9000kmを結ぶ。私はその端から端まで7泊8日、車内で過ごした。モスクワまで飛行機で飛ばせば10時間ほど。なのに、なぜこんなことをするのか。私は時折、その遠さを感じながら、どこか遠くに行きたくなるのだ。

それは私の生業が、この本のテーマ「地域と都市を実感する」ことを実践し、また、それを「書く」ことであるのに関わっている。そう、「社会学」というのは、研究対象である「社会」——この場合は「地域」・「都市」——を、①当たり前の生活実感と照らしながら捉え返し、②そこから見えてきたものをあらためて「書く」実践だからだ。これは、本書と同じ有斐閣ストゥディアシリーズ『社会学入門』でもふれられていた「日常生活における概念連関を反映した緩やかな説明」をしたり「『人びとの方法論』として記述」したりすること（筒井・前田2017: 234-235）と重なっている。

そこで本書では「地域」と「都市」に関わる人びとの当たり前の経験を、私たち自身があらためて実感し、それを私たちなりの方法で「書く」ことを、みなさんと実践していきたい。



シベリア鉄道から地域と都市を実感する

「距離」への敏感さ

そういう実践は、わざわざシベリア鉄道に乗らないとできないのか。YESでもありNOでもある。逆に、どんなに見知らぬ場所に足を運んでも、また身近な場所に暮らしていても、「地域と都市」は実感できないこともある。立ち止まって、「距離」というものに敏感になったほうが実感しやすい。

たとえばシベリア鉄道では、こんなことがあった。まず始発駅のウラジオストク周辺をぶらぶらして目についたのが、駅前に立つ高さ3~4メートルのレーニン像だ。1990年代以降に生まれた人たちにはなじみがないかもしれない。何百人もの群衆が、巨大なレーニン像が引き倒されるのを取り囲む姿。89年のベルリンの壁崩壊に始まる冷戦終結の象徴として、メディアで取り上げられやすい映像だ。見覚えのある人もいるだろう。あのレーニン像がいまも健在で、東方に向けて指さしているのだ。

乗車中も気をつけて車窓を眺めていると、あちらこちらの街にレーニン像が立っていた。駅や保線の設備にも、ソビエト連邦共産党の象徴だった赤い星が、まだそこかしこに残っていた。けれども3日、4日と走り続けていると、徐々にレーニン像も赤い星も目につかなくなり、アジアとヨーロッパの境界に立つオベリスクを越える頃になると、まったく目にしなくなった。

教科書やメディアでは、冷戦終結にともなう政治体制の劇的な転換が、たとえばレーニン像の引き倒しや赤い星の取り外しなどの象徴的なできごととともに語られやすい。こうしたレーニ



写真 1-1 ウラジオストク駅のレーニン像（筆者撮影）

ン像のような記念物に敏感になるのも「地域・都市の社会学」の入り口の1つだ(註第3章)。とくに国家と記念物とは密接に関わっている。国家の条件には体制と領土の存在が挙げられる。その国家のあちこちに、前の体制を象徴するものが残っていたら、それはそれで問題だ。だが、こうして9000 km離れた場所から徐々に国家の中枢に近づいていってみると、事実としてレーニン像も赤い星も生き延び、そして消えていつている。

ああ、近年のロシアはふたたび前体制に回帰しているからね、と考える人もいるかもしれない。だが、国家の中枢に近い地域には、レーニン像も赤い星も、この20年権力を握っている人物の像も、ほとんど目にすることはないのだ。

どのようにしてレーニン像や赤い星が生き延びているのか。ウラジオストクはじめアジア・ロシアに生きる人たちにとって、どんな意味をもっているのか。こういうふうに問いを立てるのが、国家のような1つの概念で捉えられがちな社会において「距離」に敏感になることであり、とりわけ「地域」を実感して何かを書きはじめるときかけになる(註第4、5、8章)。

鉄道に乗る経験の捉え返し

そんなふう「地域」や「距離」が、誰にとっても同じように実感されるものではない、という考え方から出発するのは、標準的な教科書『地域の社会学』と同じだ(森岡編2008:5)。そのうえで、その実感をどう記述するかチャレンジの積み重ねが社会学でもある。本書ではそうしたチャレンジを紹介して、読者のみなさん自身にも取り組んでほしいと考えている。

たとえば、「鉄道に乗る」という当たり前の経験について、次のような積み重ねがある。手近なところでは田中大介が、「通勤通学する身体形成」(2005)から最近の「駅・鉄道」(2017)まで、鉄道に乗るという経験が都市の形成とともに、どのように日本で形づくられてきたのかを、歴史資料からひも解いている。この考察をはじめ、多くの「鉄道に乗る」経験の社会学の出発点とされているのが、ゲオルク・ジンメルの「感覚の社会学についての補説」(1994)である。ジンメルはそこでこんなことをいつている。

大都市では街に比べ、周りの人びとに耳を傾けるより、人びとを見ることのほうが多くなる。一つには、街では人びとが互いに顔見知りで、言葉だけ

事項索引

◆ あ 行

アイデンティティ 10, 143, 177, 206, 214
アカデミック・トラック 92-94, 102
アーバニズム理論 208
安全 10, 13-16, 79, 134, 143, 150
イエ 170, 171
イエ・ムラ論 170, 173
家連合 52
生きられる空間 43, 49
異質性 127, 128, 188, 208
一極集中 78
逸脱現象 149
イデオロギー 60, 61
移動 91
——の女性化 63
イノベーション 193, 208
居場所 110, 111, 124, 201
居場所づくり 159
意味世界 69
移民 7, 8, 48, 71, 128
移民政策 66
イメージ 60, 61
イメージとしての未来 206
医療化 137
インタビュー（聞き取り調査） 8, 9, 91, 97,
98, 100, 103, 158
インナーエリア 36, 132, 133
インフォーマルな空間 114
インフラストラクチャ 14, 41, 148
ウォール街占拠運動 124
失われた世代 106
エスニシティ 10, 59, 60, 71, 179
エスニック・マイノリティ 73, 130
エスノグラフィ 53, 102
エンパワメント 180
公と私 122
オープン・スペース 116, 119

オリンピック誘致 87

◆ か 行

階級 10
外国人登録者数 73
外国人労働者 63, 177
回顧調査 95
街頭 109, 124, 125
概念 172
下位文化（サブカルチャー） 208-210
下位文化理論 208, 209
核家族 172
書くこと 2, 11, 12
格差 102
格差生成のメカニズム 62
学生運動 162
学歴社会 92, 93
家事労働者 63, 65
——の移動 64
過疎化 148, 152
カタストロフィ 14-16
価値の序列 178
カプチャーノ文化 132
過密 148
関係人口 106, 172
監獄都市 134
観察 5
感情労働 45
寛容性 193
官僚制 9, 17
聞き書き 150
聞き取り調査 →インタビュー
企業 59, 60
危険 10, 13-16, 32
記念物 4
技能実習制度 66
QCサークル 160
境界 3, 14, 29, 31, 59, 78, 81, 123, 149,

- 151, 152
 共在の感覚 192
 行政村 51
 行政的アプローチ 28
 共同性 146, 153, 190-192, 196
 共同性の不可視化 190
 共同体 29, 102, 155, 168, 189-192, 196
 居住 110, 111
 距離 3-8, 101, 140, 141
 近代化 20, 28, 61, 62, 78, 83-85, 102, 110,
 112, 189, 205
 近隣効果論 53
 近隣トラブル 25
 空間 44, 60, 110, 113
 ——と場所の関係 43
 ——の表象 43
 空間共存のスケール 59
 空間的アイデンティティ 29
 空間的共存 28, 32, 217
 ——の作法 5, 77
 ——のモデル 54
 空間的实践 43
 クリエイティブ・シティ論 193
 クリミナリゼーション 138, 142
 グローバリゼーションの使用人 65
 グローバル化 (グローバルゼーション)
 49, 59-61, 64, 71, 76, 79, 167, 185, 190, 206
 ——における戦略 60
 ——による不平等 65
 グローバル経済 44
 グローバル資本 16, 17, 62
 グローバル・スケール 80, 86
 グローバル都市 (グローバル・シティ) 8,
 62, 77, 136, 212, 213
 グローバルなケアの連鎖 65
 グローバルな資本主義 9, 53
 ケア労働 64
 景観 28
 経済のグローバル化 62
 経済のサービス化 62, 129
 経済連携協定 66
 芸術文化 209
 契約講 150, 151, 153, 162
 KJ法 184
 血縁 29, 52
 結婚移民 68, 69
 結節機関理論 77, 212
 ゲーテッド・コミュニティ 134
 限界集落 168, 169, 173
 言語 78
 合意形成 26, 150
 公園 116
 郊外 8, 20, 38, 40, 130, 131
 公害 176
 公開空地 121-125
 後期近代 189
 公共 125
 ——の私化 →プライベートゼーション
 公共空間 34, 48, 49, 110-113, 117, 119-127,
 188
 ——の位置づけ 118
 公共生活 123
 高度経済成長 152
 高齢者 180
 個人化 188, 189
 個人の流動化 188
 国家 4
 孤独感 5
 ゴミ処理 54
 ゴミ出し観察 12-16
 コミュニティ 24, 53, 73, 128, 145, 146,
 148-150, 154-163, 171, 177, 182, 196
 ——という言葉 146, 154
 ——の定義 153
 ——の要件 104
 コミュニティ・インフレーション 147,
 149, 150, 154
 コミュニティ形成 196
 コモンズ 152, 154, 156, 160
 コロナ禍 58
 コンヴィヴィアリティ 191
 コンタクト・ゾーン 5, 48, 49, 71

◆ さ 行

差異化 47
 災害復興 152
 再生産労働 64-66
 ——の国際分業 65
 在留資格制度 66
 祭 礼 103
 サードプレイス 111
 サブカルチャー →下位文化
 差 別 162, 174, 193, 194
 参加型アクションリサーチ 55, 56
 産業化 110
 産業的発展様式 43
 参与観察 55, 56, 103
 ジェンダー 10, 63, 65, 100, 128, 130, 133,
 152, 179, 180
 ジェンダー・トラック 99
 ジェンダー不平等 65
 ジェントリフィケーション 127, 132, 136,
 141, 142, 211, 212
 シカゴ 35, 36, 127, 128
 シカゴ学派 53, 112, 128, 208
 時間軸 52, 146, 159, 163, 212
 時空間のイコライザー 211
 資源管理 150
 自己責任 189
 視 線 5, 15, 180
 自然村 51
 持続可能性 148, 152, 154, 170
 シチズンシップ 125, 197
 市町村合併 167
 自治体外交 87
 失業率 136
 実践知 47
 質的データ 101
 質問紙調査 91, 97, 103
 資本集積 80
 市民権 197
 地 元 32, 42, 45-47, 91
 地元学 176

社会運動 125
 社会階層 36, 37
 社会学的想像力 194-195
 社会空間と地理空間の重なり 51
 社会系 197
 社会構造上の不平等 129
 社会地図 (社会調査基礎地図) 35, 36, 40,
 127
 社会調査 36
 社会調査基礎地図 →社会地図
 社会的アプローチ 28
 社会的移動 61
 社会的距離 112, 141, 146
 社会的態度 100
 社会の心理学化 178-181
 社会病理 148
 社会変動 110, 152
 社会問題 36, 65, 130, 152
 ジャカルタ 78
 首位都市 78
 周 縁 83, 84, 210
 周縁の主体性 83
 宗 教 10
 就業機会 76
 集合的アイデンティティ 69
 集合的創造性 190-192, 200, 201
 就職氷河期 90
 修正拡大家族 171
 修正拡大家族 171, 172
 集積利益 79
 縦断調査 100
 周辺-中央 91, 92
 住民運動 168
 住民自治組織 25
 住民の主体性 182, 183
 集落機能 174
 祝祭的行為 30
 主題図 35
 主体性 183
 出入国管理及び難民認定法 (入管法) 48,
 66

城下町 84
商業空間 122
少子高齢化 63, 64, 67, 71
承認 177, 178, 182, 183
承認の連鎖反応 183
消費社会 14
消費社会論 15
消費文化 148
情報的発展様式 43
女性運動 180
女性差別 10
女性野宿者 199
女性の労働移動 63
人口減少 167, 168, 172-174, 179, 183
人口ピラミッド 169, 170
震災復興 153
新自由主義 61, 64
身体感覚 14, 15
進路選択 94
数量データ 101
隙間 13
スケイプ 60, 61
スケートボーダー 40, 41
ストリート・ライフ 114, 115, 119
生活の全体性 153
政治的動員の基礎 60
性的少数者 193
性別役割分業 63, 65
世界システム論 77
世界都市（ワールド・シティ） 62, 77, 212
セキュリティ 143, 157, 189
セクシュアリティ 179
セクシュアル・マイノリティ 193, 194
セグリゲーション 129
世代 169
遷移地帯 36, 129
前近代 102
震災復興 85, 86
全体性 163
操作的定義 15, 157
創造された伝統 215

創造都市 209-212
想像の共同体 78
ソサエティ 53
ソーシャル・ディスタンス 58, 128, 140
ソーシャル・ビジネス 105

◆ た 行

大学進学率 106
大学生の地域間移動 75
大災害 58
第三空間 111
第二の近代 189
ダイバーシティ 71, 188, 193
多国籍企業 60
他者理解 70, 194
立ち退き 133, 141, 142
多様性 71, 129, 143, 188
地域 4, 27, 28, 31, 82
——の空間的秩序 29, 112
——の社会的秩序 29
——の代表 26
地域アイデンティティ 88
地域活性化 159
地域コミュニティ 73, 196
地域社会 23, 25, 112, 190, 196
地域社会学 27
地域住民組織 24
地域性 68, 146, 153
地域生活 30
地域生活支援 200
地域・都市（地域と都市） 10-12, 15, 18,
26-28, 31, 32, 39, 60, 76-79, 82, 146, 175,
186, 192, 196, 218
地域文化ネットワーク 102
地縁 29
地 図 35
地 方 46, 82-84, 89, 94, 142, 148, 169, 170,
210
——と中央との距離 84, 89
地方都市 83, 84
中間集団 189

中心業務地帯 36
町内会 19-28
——の加入率 24, 26
——の廃止 22
——のメンバーシップ 27
地理的アプローチ 28
T型集落点検 170, 177
定住聚落 215
出稼ぎ 44-46, 176, 179
デュアル・シティ（二重都市） 129
テロ 11
伝承母体 216
伝統の創造 212
東京圏 38
——の収入格差 39
東京の社会地図 38
統合機関 77
統合機関理論 212
当事者 13, 55, 70, 129, 174, 175, 195, 200
同心円地帯理論 36, 37
同窓会 96
同族団 52
独立運動 83
都市 77, 82
——の大きな特徴 201
——のトポロジー 14, 148, 149
都市化 20, 22, 30, 204
都市空間 35, 109
——の再創造 41
都市祭礼 216
都市社会学 27
——の誕生 53
都市祝祭 30, 31
都市的生活様式 54, 207
都市農村交流 176
都市問題 35
ドラマツルギー 112
鳥の目 35
トレランス 193

◆ な 行

ナショナリズム 79
ナショナル 59, 82, 83, 89
ナショナル・スケール 80-86
二重都市 →デュアル・シティ
日常の実践 47
二・二六事件 109
入管法 →出入国管理及び難民認定法
入国管理施設 70
ニューカマー 48, 73
人間生態学 53
認知地図 13
ネオリベラリズム 61, 189, 190
ネットワーク 177, 200
農村開発運動 102

◆ は 行

排外的イデオロギー 16
廃墟 8, 16, 17
排除 10, 13, 123, 163, 180, 188, 197
排除アート 127
場所感覚の喪失 205
場所の空間 44
バックラッシュ 180-183
パートナーシップ制度 188
パブリック・スペース 34
バブル経済 18, 48, 122, 131, 139
犯罪 8, 9, 15, 17, 36, 49, 70, 79, 125, 134,
138, 142
BID制度 120, 122
東日本大震災 147, 150, 169
ビジュアル・エスノグラフィ 117
非通念性 208
ビッグイシュー 185, 186
ひとり空間 187, 190
日雇い労働者 177
ビューティフィケーション 134
表象の空間 43, 44, 47
弘前 83, 84, 89, 169
広島 84-88, 117

広 場 85, 114, 127
貧 困 174
貧困マップ (プース) 35, 36, 50
貧困率 129
フィールドワーク 18, 36, 51, 52, 55, 67,
142, 175, 190, 192
不完全性 191
福祉国家 64
物理的距離 112
プライベートイゼーション (公共の私化)
118, 120, 122, 136, 180
ブレイスメイキング 119
フレーム 56, 155-158, 160-163, 172, 173
フロー 60, 61
フローの空間 44
文化の中央集権 210
分権と自治 83
分離・独立 83
平和首長会議 87
包 摂 10, 13, 188
報復主義 133, 134, 180
誇りの空洞化 175-179
ポジショナリティ 174
ポストフォーディズム 61
ホームレス問題 198, 199

◆ ま・や行

マイノリティ 193
まちづくり 159, 188, 216
町のアイデンティティ 217
道 113, 114
3つのT理論 210
耳を傾けること 4-7, 10-12, 15-17, 101,
117
未来都市 204
見る-見られる 117
見る-見られる-見せる 117
民有公共空間 121
虫の目 35, 40

村 28, 29, 51, 52
ム ラ 170-173
むらおこし 159
メガイベント 207
メタボリズム 206, 207
メリトクラシー 92
メンタル・マップ 13, 42
モータリゼーション 114
モバイル化 61
モビリティ 61, 65, 189
問題意識 194, 195, 201
問題解決 158, 159
ヤンキー 91
よそ者 11, 177, 178, 179
弱い紐帯 140

◆ ら・わ行

ライフコース 101
ライフスタイル 151
ライフ・ヒストリー 97, 98, 101, 202
ラベリング 46
リージョナル 59
リージョナル・スケール 80, 84
リスク社会 189
リスケーリング 80, 81
了 解 192
歴史的環境保存 217, 218
歴史的景観 212
歴史の場 215
連鎖的立ち退き 134
労 働 111
労働移動 71
ローカル 49, 59, 82, 83, 89, 213
ローカル・スケール 80, 82
ローカル・トラック 92-99, 102, 104
ローカル・ネットワーク 102, 104
若 者 178, 179
ワークショップ 176, 182
ワールド・シティ →世界都市

人名索引

◆ あ 行

浅川達人 38, 40, 110, 131
アーリ, J. 60, 61, 205
有賀喜左衛門 52
アンダーソン, B. 78
五十嵐太郎 127
井口 暁 192
石倉義博 96
磯村英一 111
伊奈正人 210
今里悟之 29
イリイチ, I. 191
岩館 豊 111
ヴァカン, L. 130
ウィリアムズ, R. 204
ウィルソン, W. J. 130
ウォーラーズテイン, I. 77
内田隆三 14-16, 221
小田切徳美 173-176, 180
オルデンバーグ, R. 111

◆ か 行

カステル, M. 43, 44
河合洋尚 213, 215
吉川 徹 91-93, 95-97, 101, 226
ギデンズ, A. 59, 60
金 賢貞 216, 217
倉石忠彦 216
倉沢 進 54
クレンショール, K. 130
小浜ふみ子 22
ゴフマン, E. 112

◆ さ 行

サッセン, S. 62, 64, 77
サンブソン, R. 53
ジェイコブズ, J. 208, 226

陣内秀信 110
ジンメル, G. 4, 5, 7, 11, 15, 112, 140, 141
ズーキン, S. 122, 132, 138, 227
鈴木栄太郎 51, 52, 77
スミス, N. 132, 133, 211
セルトー, M. de 47

◆ た 行

高畑 幸 67
竹中克行 84
田中重好 125, 190
田中大介 4
谷 謙二 40
田巻松雄 69-71
玉野和志 32, 110, 221
筒井淳也 2, 15, 94, 101
デイヴィス, M. 134
デュルケーム, E. 188
トゥアン, Y. 43, 44
徳野貞雄 170, 171, 176, 177, 180

◆ な 行

南後由和 187, 190
西澤晃彦 195, 197
西野淑美 96
ニヤムンジョ, F. B. 191
任 雪飛 213

◆ は 行

ハーヴェイ, D. 61
バウマン, Z. 104, 149, 228
パーク, R. 53, 112, 128
バージェス, E. 128
旗田 巍 29
バック, L. 7-13, 16, 17, 177
浜日出夫 215
林 真人 111
バレーニャス, R. 65

樋口直人 71, 224
費孝通 29
日高六郎 109, 124
フィッシャー, C. 208, 209
藤田弘夫 28, 79, 225
ブース, C. 35, 50
船戸修一 172
ブラット, M. L. 48
フリードマン, J. 62, 77
フロリダ, R. 135, 193, 209, 210
ベック, U. 189
ホックシールド, A. R. 65
ボーデン, I. 34, 41, 42
ホブズボーム, E. 212
堀川三郎 217, 230
ポルテス, A. 135
ホワイト, W. F. 55, 56
ホワイト, W. H. 119

◆ ま 行

前田泰樹 2, 15, 94, 101
町村敬志 48, 79-81, 131, 230
松本 康 158, 171, 221
松沢裕作 29
松平 誠 30, 31
松田素二 82, 190-192

マートン, R. K. 162
マール, M. 136, 137
マルクーゼ, P. 133
丸山里美 199, 229
宮内泰介 149-155
ミルズ, C. W. 195
ムニョス, F. 211
メイロウィッツ, J. 205
森岡清志 4, 171, 196
森山至貴 193, 194

◆ や 行

矢崎武夫 77
柳田国男 210
山下祐介 83, 168-170, 177
ヤング, I. M. 142, 194
結城 翼 141

◆ ら・わ行

ランドリー, C. 209
リンチ, K. 212
ル・コルビュジェ 206
ルフューブル, H. 42, 43
ローゼンバウム, J. 94, 95, 100
若林幹夫 14, 212
ワース, L. 128, 208



地域・都市の社会学——実感から問いを深める理論と方法
*Introduction to Community and Urban Studies:
Doing Sociological Research on the Ground*

2022年4月20日 初版第1刷発行

著者 平井太郎
松尾浩一
山口恵子

発行者 江草貞治

発行所 株式会社 有斐閣

郵便番号 101-0051
東京都千代田区神田神保町 2-17
<http://www.yuhikaku.co.jp/>

印刷・株式会社理想社／製本・大口製本印刷株式会社

© 2022, T. Hirai, K. Matsuo and K. Yamaguchi.

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

★定価はカバーに表示してあります。

ISBN 978-4-641-15095-9

JCOPY 本書の無断複写(コピー)は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(一社)出版者著作権管理機構(電話03-5244-5088, FAX03-5244-5089, e-mail:info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。